

「記憶の中の住まい」プロジェクト

クラウドファンディング開催中 支援者大募集！

募集期間

8/31
まで

津波で失われた 26の海辺の暮らしを 冊子で残したい

「記憶の中の住まい」の活動について

東日本大震災後、2年が過ぎてから活動が始まりました。「震災で失った住まいや思い出を、形に残すことはできないか！」との思いで立ち上げた「女性建築技術者の会」のキオスマプロジェクトを「宮城県建築士会女性部会」が引き継ぐ形で取り組んできました。

被災された方から、失った家や暮らしのお話を伺い聞き取り図と話の記録を作成し、「**アルバムの1ページ**」としてお渡ししてきました。活動を通して家族の暮らしのみならず、地域の思い出や歴史

などにも及ぶお話を聴くことができ、その貴重さに気付かされました。

これまでに聞き取りをして成果品をお渡しした方は、気仙沼から山元町に至る宮城県の沿岸部で被災した方々です。

このプロジェクトで実現したいこと

元々の活動の主旨はご本人に成果品をお渡しして終了としていましたが、日々変わっていく被災地の姿を目の当たりにし、聞き取りした記録との乖離が大きくなっていくのを見るにつけ、その記録の貴重さを強く感じました。「聞き取りした記録を形に残したい」、「暮らしの記憶を繋いで、伝承に役立てることができれば」との思いから冊子の発行を決めました。続くはずだった普通の暮らし・街並みが震災前まで確かにそこにありました。少し不便だけれど豊かに自然と共存する生活、地域で子育てするコミュニティがありました。これらの記録を冊子として残し、繋いでいきたいです。

応援よろしくお願いします！



←ご支援・詳しい内容はこちらから

プロジェクト名：

津波で失われた26の海辺の暮らしを冊子で残したい

目標金額：100万円

募集期間：令和5年8月31日まで

プロジェクトページ：

<https://readyfor.jp/projects/kiosuma>



クラウドファンディングとは

群衆 (crowd) と資金調達 (funding) を組み合わせた造語で、インターネットを通して自分の活動や夢を発信することで、想いに共感した人や活動を応援したいと思ってくれる人から資金を募るしくみです。途上国支援や商品開発、自伝本の制作など幅広いプロジェクトが実施されています。